

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル修道院

2019年2月

350号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	31
京都	32
北陸	35
通信深読お申込みのご案内	36
諸所の企画案内	37
郵送お申込みのご案内	50
編集後記	51



聖ヨゼフと幼きイエズス像 (宇治カルメル修道院)

心の泉



宇治カルメル修道院



第三卷

第十七章 すべての心配を神にゆだねる

3 主

《子よ、もしあなたが私と共に歩もうとするなら、次のように生きなければならない。あなたは、喜びと同じように苦しみに備えなければならない。また、貧しく乏しい状態でも、豊かに富んでいる時と同じ態度をもって、快く忍びなさい。》

4 子

《主よ、私は、あなたへの愛のために、あなたがお望みになることを喜んで耐え忍びます。み手から来るものなら、同じ心をもって、善も悪も、甘さも苦さも、喜びも悲しみも受ける覚悟です。そして、私に起こるすべてのために、あなたに感謝します。私をすべての罪から守ってください。そうすれば私は、死も地獄も恐れません。あなたが、永久に私を見捨て、私の名を永遠の命の書から消し去らないかぎり、私はどんな患難や苦しみにもそこなわれないでしょう。》

第十八章 地上の患難を、キリストの模範に従って平静に耐え忍ぶ

1 主

《子よ、私はあなたの救いのために天から降った。私があなたの悲惨^{ひさん}を背負ったのは、その必要があったからではなく、愛したためであった。あなたが忍耐を学び、地上の辛苦を快く甘受するようにさせるためであった。実に私は、この世に降ってから十字架上で死ぬまで、苦しめない時はなかった。私は、この世の物をほとんど持っていなかった。私はしばしば他人の非難を耳にした。はずかしめと侮辱とを、柔和をもって耐え忍んだ。与えた恵みの返礼として冒瀆^{ぼうとく}を、奇跡の返礼として非難を受けた。》

2 子

《主よ、あなたは、おん父のみ旨を完全に果たし、そのご生涯にわたって忍耐されました。それならば、みじめな罪人の私が、あなたのみ旨に従って、患難を忍び、自分の救いのために、あなたのみ旨の時まで、はかないこの命の重荷を忍ぶのは当然のことです。まことにこの世の生活は重いものですが、あなたの恵みによって、それは功德となります。あなたの生活にならい、聖人たちに従うことによって、弱い私たちにとっても、それは明るく忍びやすいものになります。その上、古い律法の時代には天の門が閉ざされており、天への道は暗く、その頃には、神の国を得ようと努める人は少なかったのです。しかし今の生活には、その頃よりも、さらに多くの慰めが与えられています。救いの国に備えられていた正しい人々でさえ、あなたが受難と死をもってこの世をあがなうまでは、天の国に入ることが許されませんでした。》



愛のないところに
愛を蒔きなさい
そうすれば
愛を刈り取るでしょう

主の祝福をもってはじまった新しい年の日々
をどのようにお過ごしでしょうか。

「わたしは、神の民の忍耐の中に聖性を見るのが好きです」と言われる教皇フランシスコは「聖なるものになる」には、日々の生活の中で身近なことのうちに愛を育む必要があるとたびたび話されます。

家庭、学校、職場で愛がないとの嘆きをよく聞きます。十字架の聖ヨハネは、「愛は人から期待するより、自分から愛の種を蒔きなさい。そうすれば、たとえ時間がかかっても愛を刈り取る」と教えています。でも、それは言うほどやさしいことではありません。わたしたちはあまりにも自分にこだわって生きてしまいます。

「そうです、善を自分のまわりに蒔かなければなりません。でも芽が出るかどうか心配することなく…」とは小さき道を歩むテレーズ。

「《愛の火をたやしてはなりません》、闇夜や乾燥状態のただ中にいるときには、わたしたちの手の届くところに、たきぎを見つけることはできません。けれど、少なくとも小さなわらくずを投げ入れて火を保つのは、わたしたちにも出来ることではないでしょうか。」*とささやいて、テレーズはわたしたちの日々の歩みを応援してください。



伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

* 『弱さと神の慈しみ』伊従信子 サン・パウロ社

創造主への賛美（17）

くのり 彰
九里 彰

原罪物語がどうして重要なのかというと、そこに人間の偉大さと悲惨さの淵源があると思われるからである。人間存在の神秘が潜んでいるとも言える。

21世紀、人類は今や宇宙にまで進出し、インターネットやAIは私たちの生活を劇的に変えようとしている。輝かしい未来が待ち受けているようにも見えるが、一方では、利己的な個人主義が世界に蔓延し、家庭は崩壊、DVや幼児虐待、麻薬や人身売買等が拡大している。単に暴力や犯罪があつとを絶たないというだけでなく、人類の歴史そのものが戦争の歴史であると言っても過言ではない。今なお、国益をめぐり、国家間の衝突、争いは絶えることがない。死の闇が今もなお世界全体を覆っているのである。

確かに二千年前、「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射しこんだ」（マタ 4・16）。だが、光は今や闇に呑み込まれるかのようである。「宗教なき時代」、神を信じない現代人には、「人類の偉大さへの賛美」は納得できても、「創造主への賛美」など、ナンセンスと片づけられてしまうのではないだろうか。

神は園の中央に、「命の木と善悪の知識の木」を生え出でさせ、「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」（創 2・16-17）と、人（アダム）に言われる。人がこの命令を破って「善悪の知識の木」の実を食べると、「二人（アダムとエバ）の目は開け、自分たちが裸であることを知る」（同 2・7）のである。

この箇所を聖書学者たちはいろいろな側面から解釈しているが、それらは皆、貴重ではあるが、頭での理解に終始しているように思われる。だが、ここで求められているのは、頭で知ることではなく、心で悟ることではないだろうか。奥村一郎神父は『断層』の中で、こう述べている。

知識は知性、知恵は心に座を置く精神機能であることは、どこの言語にもある区別である。「知る」と「悟る」の違いも、そこに当てはまる。立心偏の「悟」は「心の中に明らかに見る」と辞書で説明されている。「心で分かる」ということは、また、「体で知る」すなわち「体得」となるのが日本語である。（「智慧と知識」）

知性的な理解を超えた、仏教的に言えば、般若の智慧が求められているのではないだろうか。（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（132）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（9）

詩人自身によってなされた第一の注意は、神の偉大さと崇高さも靈魂が靈的成熟のこの地点において見出すものも、「普通の言葉によって」（CB14-15,3）意味し伝えているということです。すなわち、山々、谷々、河川、そよ風等々の最もありきたりの言葉によって。この言葉に表現されたものを、著者は「見る、見出す、理解する、感じる」、そして特に、「好きである、楽しむ」といった動詞によって分類しています。（訳注：筆者はヨハネの文を以下において分析的に表記しています。）

「靈魂は、この神的一致において、見て、楽しむ：

——あふれんばかりの豊かさと測りしれない富を。

そして見出す：

——靈魂が望んでいるあらゆる安らぎとくつろぎを。

そして理解する：

——神の秘密と、その不思議な知識を、

これは人々が知っている最上の食物にもまさるおいしい食べ物である。

そして神の内に感じる：

——他の一切の能力や力を超絶する恐ろしい能力と力を。

そしてそこで味わう：

——感嘆すべき甘味と靈の愉悦を。

そして見出す：

——真のいこいと神的光を。

そしてきわめて高い様式で味わう：

——被造物と神のわざの調和の内に輝く神の知恵を。

そして満たされているのを感じる：

——すべての善で。またすべての悪から解放され、空になっているのを。

そして特に理解し、味わう：

——愛の内にゆるぎないものとする測りがたい愛の糧を。」（CB14-15,4）

エディット・シュタインにおける女性の霊性 (6)

ハビエル・サンチョ神父 (OCD)

「命ある者の母」¹: 真の母性は、同時に、自然的かつ超自然的召命です。自然的な召命は、この世の生ために子供たちを教育し、最良の発達へと身体的精神的な力を導いていくことにあります。超自然的な召命は、神の子供たちを養成し、彼らが永遠の命に参与するよう導くことです…。天のために子供をもうけること、ここに真の母性——身体的母性からは独立した霊的母性——、身体的母性に劣らず、心配や犠牲や疲労を要求する、もっとも美しく崇高な、喜びに満たされた母性があります。幼子の心に神の光線を呼び覚ますこと、彼の中に神の命を育てること、彼がどのように成長するか見守っていくこと、また神から遠く離れた成人の、信仰の光が消え、墮落し、見捨てられた靈魂に対し、恵みの命が灯されるよう助けること、またある靈魂の内に実現されている変容の尋常でない過程を観想することができ、また道具として協働することなど。これが証しであり、天国への準備であり、この世からのものでない喜びです。このような霊的母性は、人間の命を意味で満たすことができますが、それは、その人の靈魂がキリストによって満たされ、実を結んでいるような人の中でのみ可能です (作品 98-99)。

「強い女性」: それは、男たちの善のためにすべてを賭けることができる聖書の女性の理想です。エディット・シュタインにとっても、今日の世界のために緊急不可欠なものとして、女性が取りもどすべき役割です。「今日、“Mulier fortis” (強い女性) という理想にふさわしい母親をどれだけ必要としているでしょう」 (ESW V, 155)。

「キリストの花嫁」²: 「したがって、彼女は、たとえ修道会に所属していなくても、” sponsa Christi” (キリストの花嫁) という肩書を、自分のために要求し、主が奉献生活者に仕えるよう求めている特別な依頼を意識しなければなりません。日常生活の中で主が働くための空間を残すならば、——主の食卓で日々の仕事のための力をくみ、絶えざる祈りの中で、神との信頼に満ちた友情をはぐくみ、神の中に助言や慰めや助けを探し求め、典礼年の間、典礼との密接な一致の

¹ Cfr. ib.,147-148.

² Cfr. ib.,154 y 201.

内に神の命を生きるならば——その時、靈魂はキリストの命でますます満たされ、関わるすべての人々に、おのずとこの神の命をもたらすことでしょう。神の命を目覚まし、養い、守り、発展させるこの神の愛に満たされた生は、最も崇高で聖なる母性であり、女性の召命の最も崇高で聖なる発展です。そのような生は、隣人愛に欠けることはありません。神の愛に満たされた者は、その心は人々への愛にあふれており、また豊かな愛をも見出すのです。人間のすべての心には、神から離れてしまっている人々の心にも、——まさにこの人々の中に——理解に満ちた無私の愛に対するノスタルジアが生きているのです」(作品 99)。

「教会のシンボル」:最後のものは、他のイメージに見られたように、女性の靈性的内容を、力強く、独自性をもって表現されているイメージです。キリストに対する教会の位置、地上におけるその機能と使命は、崇高な仕方、女性の真の召命を表しています。「彼女は、その本質のもっとも崇高で純粋な程度において、教会の本質そのものを人格化するよう、そのシンボルとなるように呼ばれています」(ESW V, 189)。

このような展望から、この世と教会における女性の使命・召命は、きわめて重要なのです。女性差別以上のことが、そこにかかっているのです。女性やその固有の諸価値の不在は、人間性そのものの実現を危険にさらすのです。エディット・シュタインが明るみに出した神学的・人間論的基礎は、この世や教会が、女性を差別し続けてきたその歴史の中で見失ってしまったものを理解する助けとなることでしょう。

(完)



年間第4主日 (C) (ルカ4:21-30)

年間第4主日の典礼では、再びイエスがナザレの会堂で話しています。先週の日曜日の福音の続きで、イエスはイザヤの預言を読みました。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために。主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人には開放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」イエスは読み終わると、この預言の言葉は今日あなたがたが聞いたとき実現したと宣言されます。

最初イエスの言葉は受け入れられ、町の人々は彼の恵み深い言葉に驚き、ヨセフの息子ではないかと言いますが、そのうち同じ人たちがイエスを殺そうとします。何がこのような劇的な変化を心の中に起こさせたのでしょうか？

イエスはイザヤの言葉を解釈して「この聖書の言葉は、今日あなたがたが耳にしたとき、実現した」と言います。イザヤの言葉を自分自身として受け取め、イエスはその言葉に完全に明確の意味をあてはめ、自分はこの預言を実現するために来たメシアであると宣言されます。この解釈は会堂にいた人々に不信感を起こします。彼らは憤慨し、イエスのことを知りたいと思いませんでした。イエスがイザヤの言っているメシアであると受け入れたくありませんでした。彼らは「彼はヨセフの息子ではないか？」と言いました。イエスが貧しい人や盲人や圧迫されている人たちを受け入れると言うので憤慨しました。人々はイエスの考えを受け入れませんでした。このように、排除者を受け入れるという考え方を示すと、イエス自身が排除者となります。

ナザレの人たちは、神の恵みに対して排他的な資格があるという感覚を持ち、同様に隣人のシリアやフェニキアに対して深い偏見を持っているようです。彼らの歴史の多くは隣国との争いや、生き残りのための戦いです。神の預言的で癒しの力は手に入れやすく、イスラエルの中より異邦人の間のほうが受け入れやすいとイエスが示唆したとき、人々の怒りは際限を知らず、暴力となります。イエスの言葉の暗黙の批判と預言的な挑戦に対して忍耐できません。この福音は、私たちが預言的な挑戦に直面したとき、身体的、言葉上、感情的暴力に向かわないように、自分の仮定や偏見を調べてみるように招いています。

イエスの目的は排除者を受け入れることです。私たちは全ての人を受け入れているでしょうか、誰かを排除していませんか？ ある人たちを排除する理由は何でしょうか？ イエスの使命は本当に私たちの使命、私の使命でしょうか？ 私たちの共同体の中で、排除されていてもっと受け入れるべきなのは誰でしょうか？ イエスに委ねられている使命を遂行する力を与えてくれるのは誰でしょうか、何でしょうか？

(Sr. Paulina)

年間第5主日 (ルカ5:1-11)

ペトロはとれた魚の量に驚き、イエスの前にひれ伏して言いました。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」。彼はイエスの前で罪を自覚しました。彼の自覚した罪とは何だったのでしょうか。何か悪いことを犯したのでしょうか。

おそらく、彼の自覚した罪とは、神の威光を前にして初めて気づく神と自分とのズレ、神と比較した自分の卑しさというものだったのではないのでしょうか。それは、人にも分かる明らかな過失という罪ではなく、霊的な体験をとおして初めて見えてくる自分の惨めな真の姿だっただろうと思います。

彼は、この直前に、自分がイエスにこう言っていたことを思い出したはずです。「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした」。ここではまだ、イエスのことを「先生」と呼んでいます。イエスを尊敬していましたが、漁に関しては自分の方が上だという自負があったことでしょう。「こんな時間に網を降ろしたって、何もとれるわけがない」と、心の中ではイエスに反発しながら網を降ろしたのではないのでしょうか。

しかし、ペトロはとれた魚に圧倒され、イエスの神性を直感し、自分がいかに高ぶっていたか、イエスを軽んじていたかに気づいたのだと思います。人から見たらごく些細なことかもしれませんが、このような罪の自覚が霊的な生活にはとても重要なものだと思います。「わたしは神の前で取るに足りない人間です」、「罪人です」という深い自覚を持てる人は、ペトロがそのあと「すべてを捨ててイエスに従った」ように、新しく生まれ変わっていくことができるのです。

この年間第5主日の第一朗読では、やはり神様の威光を前にしたイザヤが、自分の罪深さに胸を打つ姿が描かれています。「災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者」。そのようなイザヤに神は優しく近づき罪の赦しを宣言されます。そして、イザヤは立ち上がり「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と生まれ変わります。

第二朗読のコリントの教会への手紙でも、パウロは「わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。神の恵みによって今日のわたしがあるのです」と述べています。

このように、神の前での真の謙遜、そして、神の恵みによって立ち上がって生きる姿こそ信仰者の模範ではないのでしょうか。そうしてはじめて、「もはやこの身に生きることなく、キリストによって生きる」者となれるのだらうと思います。罪の自覚、謙遜は、神の恵みに生きるためにとても大切な姿勢なのです。

(今泉健神父)

年間第6主日 (C)

(ルカ 6 : 17、20-26)

今日の福音では、12人の使徒を選んだ後に、山から下りて平らな所に立ったイエスの姿が描かれています。神の言葉を民に伝えるために山から下ったモーセのように、イエスもみ言葉を告げるために山から下りられました。群衆が見守る中、主は、弟子達に4つの幸いと4つの不幸について語りました。それぞれの真福八端には警告が伴っています。

イエスは、貧しい人々、飢えている人々、泣いている人々、人の子のためにのしられている人々に対し、天の国が彼らのものであると教えられました。彼らこそ、天の国への招待状の最初の受取人であり、神から優遇されている者なのです。

この真福八端は、イエスのご生涯そのものです。イエスは、神から祝福されて幸いな者であるという仮定に基づいてこの世を生きただけではなく、実際に神から祝福を受けて幸いであることをいつも心に留めて生涯を全うしました。主は、欠乏の貧しさだけでなく、群衆と独りで対峙する貧しさや、御父に完全により頼む貧しさを体験されました。また、パンによって満たすことのできる飢えとともに、正しいことの実践によってのみ満たすことのできる飢えを体験されました。主は、大切な友を失った時に涙を流されましたが、ご自分の民が救いの機会を逃したことに對しても涙しました。さらにイエスは、笑い者とされ、拒絶され、裏切られ、見捨てられた体験をしました。イエスは、ご自分の使命を果たす中でこれらを全部体験しましたが、これは一生を神に捧げ尽くしたことによってもたらされた結果でした。

真福八端は、貧困、飢え、嘆き、苦しみを体験するための説明書きではありません。天の国の到来のために今既に働いている人々に向けて、不完全なこの世界に天の国が訪れた場合に何が起こるのかと神のみ業に参与する者が何を味わうのかを伝えています。つまり、貧しさ、飢え、涙や拒絶に打ち勝つ神の力が約束されています。

神の御手が、貧しさを含むこれら全てから人々を救うという約束こそ、善い知らせです。神は、傷ついたご自分の民をそのままに放置されません。もしそうならば、「今泣いている人々は幸いである、あなたがたはもっと泣くようになる」と書かれているはずですが、真福八端には、悲劇をくつがえす寛大な神の眼差しがあります。「今泣く人々は幸いである」という悲劇が、「あなたがたは笑うようになる」という喜劇へと変えられるのです。約束されているのは、悲劇ではなく喜劇の訪れなのです。

(Sr. Paulina)

年間第7主日

(ルカ6：27-38)

今日のみことばですが、神の子として生きる私たちにとって大切なことが語られます。31節の「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。」は、黄金律と呼ばれ、人と人との関係を大切にするための指針です。それは信仰を持っている人にも、信仰を持っていない人にとっても大事なものでしょう。

その前後で具体的な事柄が語られます。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にし、悪口を言う者に祝福を祈り、侮辱する者のために祈りなさい…と。私たちは幾度となくこの言葉を耳にしました目には思いますが、私たちはイエスがこの様に言われることを日々の生活の中で実行しているでしょうか。

イエスは言われます。あなたがたは敵を愛しなさい、人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい…と。あらためてこれらの言葉に耳を傾けて、それぞれ振り返り、実行できる様に新たに歩み出す必要があるでしょうね。そしてその様に生きるのなら、たくさんの報いがあり、いと高き神の子となると言われます。

またイエスは、父なる神の方に弟子たちの目を向けさせ、父に倣う様に諭されます。

「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」このイエスの言葉は、とても大きな喜びですね。ご自分の父、父なる神をあなたがたの父と言われるイエス。わたしたちの父は、天におられる慈しみ深い父なる神なのです。

父が憐れみ深いように、憐れみ深い者となりなさい。その様になっているでしょうか。

そして今、私たちが人を量る秤は、どの様なものになっているでしょうか。私たちは、自分の量る秤で量り返されるのです。父なる神があふれるほどに量りをよくして下さり、私たち全ての人が、父のふところに入ることができます様に。

(Fr. 古川利雅)

いのちの言葉 2月

平和を尋ね求め、追いもとめよ。

(詩編 34・15節)

この詩編のなかで、ダビデは会衆を前に自らの喜びと感謝を表現しています。

なぜなら彼は、死の危険と恐怖の中にありながら、なおも信頼をもってイスラエルの神を呼び求め、平和を見出すことが出来たからです。

この賛歌の主人公は慈しみの神であり、助けを求める貧しい人、抑圧された人の傍らにしっかりと寄り添って下さる神です。

自分のように、他の人々も神の救いにあずかれるよう、ダビデは次のような心構えをすすめています。「悪を離れ、常に善をおこなうこと」と。

また「隣人の名誉を傷つけないこと」の必要性も説いています。実際、言葉の禍わざはひにより戦争が引き起こされることもありうるのです。

平和を尋ね求め、追いもとめよ。

聖書において平和という言葉は、多くの意味を含みます。肉体的・精神的に健康であることや、個人または民族の間での合意や協定なども指します。

しかし、何よりもまず平和は神の賜物であり、それは御父としての神の姿そのものであると言えます。ですから、私たちが真の平和を体験するためには、ひたむきにかつ懸命に、人生において神を探し求めることが必要です。

では、「神を探し求める」とは何をどのようにすることでしょうか。

それは、私たちの心の中の「良心の声」に耳を傾けることです。その声はいつも、悪を離れて善に向かう道を選ぶよう、私たちの背中を押してくれるでしょう。

また、神ご自身が私たちを導き働いて下さるように、私たちのすべてを神にお任せします。なぜなら、私たちよりも先に神の方から、私たち一人ひとりを慈しみ探し求めておられるからです。

私たちはキリスト者として、洗礼によりイエスとの親しい関わりのうちにいます。イエスこそが、私たちのそばにおられる神、平和を約束された神です。イエスは平和そのものなのです。そして私たちは慰め主である聖霊という賜物を受け取りました。

聖霊は、私たち自身が体験した神の平和を、周りの人にも分かち合いながら愛する道をいつも示してくださるでしょう。

摩擦を乗り越えたり、根拠のない非難や、うわべだけで誰かを批判したり悪く言うといった行動をやめて、誰をも受け入れることに心を開くよう導いてくださるでしょう。

世界のあちこちで人々の血を流す全ての武器を、根絶することはできないかも知れません。

しかし、自分の置かれた場、家庭や教会、職場や地域社会の中で、傷ついた関係を修復するために自ら行動することはできるでしょう。

愛の持つ力を証ししようと生きる共同体の存在は、それが小さくとも大きくとも、やがては異なる社会組織、諸教会の間で、ひいては異なる政治政党同士の間で、対話の架け橋となるはずです。

平和を尋ね求め、追いもとめよ。

平和を真摯に願い求めることは、すべての被造物を守るための正しい行動につながります。自然もまた、私たちにゆだねられた神からの賜物であり、神の子である私たちには未来の世代に対して責任があります。

これについて、1990年にキアラ・ルービックは(日本の仏教団体である)立正佼成会の創立者、庭野日敬師にあてて、次のように書いています。

「人間が神と平和的関係にいないならば、自然そのものの平和も損なわれます。神の摂理に従わずに、人間が自らのエゴイズム、際限ない所有欲のために自然を利用するとき、地球の味わう苦痛を信仰者は感じるのです。自然環境は何よりもこうしたエゴイズムや欲望によって汚染され、物理的な汚染はその結果にすぎません。(中略)すべての被造物が、私たちを愛して下さる御父からの賜物であることを知れば、自然との調和ある関わりがどうあるべきが自ずと分かります。そして自然という賜物が、一部の人たちだけではなく、現在と未来の人類全体に与えられた贈り物であると分かれば、一層の敬意を払うことができるでしょう。」

レティツィア・マグリ

各地のいのちの言葉の集い

関東 東京 ・調布：第2木曜日 10:00～お屋ごろまで カトリック調布教会
・吉祥寺〈不定期〉

神奈川・鷺沼：第2木曜日 13:30～16:00 個人宅またはカトリック鷺沼教会
(044-898-7091 山崎)

・戸塚：第3水曜日 14:00～ 個人宅にて (045-825-1065 枇杷)

・藤沢：第2日曜日 13:30～ カトリック藤沢教会 204号室

・厚木：第4木曜日 10:00～ 嵐真持寄り 個人宅 (046-247-8854 成田)

中部 愛知 ・名古屋：奇数月の第2土曜日 14:00～ カトリック緑ヶ丘教会(緑区)注)但し
次回は12月8日

・瀬戸：第2日曜日 14:00～ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

九州 長崎 ・長与：第3水曜日 14:00～カトリック長与教会

・涌上：第4日曜日 11:00～カトリック涌上教会 養理教室

鹿児島：第2日曜 14:00～16:00 カトリック谷山教会

奄美：第3月曜日 14:30～個人宅 (0997-57-1871 讀)

第3金曜日 14:00～個人宅 (0997-53-7641 松下)

沖縄：第3日曜日 14:00～16:00 カトリック関南教会 養理教室

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

これというあてもなく、何ら予定も立てずに、ただ気の向くままに旅に出るのだという話を、よく聞きます。

また、私の友人は電車に乗っていて、窓の外を見ていて、何かを目にして思いついたらすぐさま見知らぬ駅に飛び降りて、何ひとつあてのない散策をするのがとても楽しいと言います。

私はそのような話を感嘆しつつ、いつもどこか憧れのような気持ちをもって聞くのですが、いざ自分のこととしてというなら、試みようと思うことすらままならないというところでは。

想像だけはしてみるとして、例えば電車に乗っていて、ふと窓外の桜の花の美しさにたまらなくなるとして、見知らぬ駅に下車したとして、少しの間だったら花の樹の下をふらふらするかもしれませんが、やがてそのまま駅に戻り、見知らぬ電車に乗って、興奮気味の自分を鎮めることでオチでしょう。

ましてやあてどない旅に出るとか、更にはあてどなく外国へ行くなどは、もってのほかというしかありません。こうした事態には私の何もかもが追いつかない気がします。それでいてどこか憧れはあるようなのです。

そんな話をあれこれ友人と交わしているときに友人から、あなたは魂の旅で遥かな内面を彷徨い歩くからそれで済んでいると言われて、わかったようなわからないような思いで心に何かを残しました。

あてどないとは何でしょうか。

さまざまなことが思い起こされ、さまざまなことを思い巡らすこととなりました。

私たちは、母の胎内を出たその時からどのような歩みを辿るのか、どのように歩み進んで行くのかを、ほんとうには何ひとつわからないといっているのではないのでしょうか。だからこそ幸多くありますように、恵み豊かでありますようにと願いを込めて、名をつけられたりもするのでしょう。

誕生、旅立ち、航海・・・とにかくわかることのできない行く末の無事を願うからこそ、グッドラックの挨拶が贈られるのでしょう。

しかしまた一方では、私たちは常に目的を持ち、目指す具体的な目標があり、当て所があり、明日予定していることもあるのです。スケジュール表はなくてはならないのです。そして何といたっても遥か未来を見据え、わたしには夢があると言い生きているのではないのでしょうか。

昨日、今日、明日、・・・希望もあり失望もありますが保証はないとっていいのかもしれませんが。 目的、目標、当て所、明日の予定は崩れることがあるのです。不慮の出来事もあれば自らの変更、心変わりもあります。

つまるところ私たちには、生きていく限り大小にかかわらずわからないことが常に控えているといえるのではないのでしょうか。

先の友人は、あてどない道を好むのは生命あるものの本性と言います。

この友人とは以前一緒にカウンセリングを学んだことがあるのですが、人と関わること、また、人の話を聴くことなども、言ってみればあてどない道程ではあります。二人の対話がどのように進み発展するかは始まりの時には何もわかってはいません。関係も、対話も、成っていくものは二人の渾身の刻々の創造と言っているのかもしれないと思っています。

友人は、途中下車した散策で出会うさまざまな経験を大切にしているのですが、時には人とのちょっとした不意の触れ合いも深く心に残っていると言います。そのような出会いそのような時間は、ほんとうに天から降ってきたとしか思えないのだそうです。私はそんな彼女の話聞くのが好きです。

思い巡らしていると、あてどないこと自体が私たち自身を言い表しているとも思えるのです。

あてどないって私たちにとって何だろうとつぶやくと、そんなあてどないこと言わないでほしいとの返事でしたが、前途が果てなく広がっていることというのは切に感じられることでした。

内的世界を彷徨い歩くからそれで済んでるということはありませんが、思い浮かぶ言葉があります。

「神よ あなたは私たちをご自身に向けておつくりになりました ですから私たちの心はあなたの内に憩うまで 安らぎを得ることができないのです」

それはあまりにも遠く、あまりにも近く、ほんとうにあてどないように感じられて、希望のような、また、信仰のような、そして愛のような、そういうものに思えるのです。

(上野毛教会信徒)

糸巻き棒からペンへ(39)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

修道院は良家の娘たちの住まいと化しました。両親が、身分にふさわしい夫を彼女たちに、すなわち少女や適齢期の娘や反抗的な娘や敬虔な寡婦に獲得できなかったからです。最も有力な修道院の場合には、身分の高い家の娘の財産や資産が、修道院の財産や社会的影響力を増すために利用されました。各修道院は、法的に独立していたので（同一の修道家族への帰属さえも）、いくつもの点があれこれ入れ替わりました。

ご託身修道院の場合、一緒に住んでいた在俗の少女や女性たちを別にして、三種類の修道女がいました。

1. 持参金を持ってくることができ、読むこともできる修道女たち。彼女たちは「黒ベール」で、歌隊所で教会の聖務日課を唱える義務があり、修道院会議において発言権と議決権（投票権）を持っていました。

2. 持参金を持ってくることができなかった修道女たち。彼女たちは「白ベール」で、歌隊での歌唱の義務はなく（指定された数の主祷文を唱えることがその代わりとなる）、また修道院の決定が行われる会議には参加することができず、家の中の仕事に従事していました。彼女たちは、「平修女」とか「助修女」と呼ばれていました。この人々や召し使いたちは、共通の食堂と寝室を使っていました。そこではしばしば生活必需品が不足していました。

3. 生活必需品をまかなうことのできた「ドニャ」は、自分の台所、食糧庫、小礼拝堂、応接間、寝室のついた広い部屋を持っていました（テレジアの場合がそうです）。さらに、衣服や宝石を身につけることができ、部屋を掃除したり、食事の準備をしたりする身内の者や召し使い、またペットとして犬や他の動物を持つことができました。自分の家族の姓や肩書や社会的特権を保持し、共同の聖務日課だけでなく、他の義務も免除されていました。

修道院が、すべての修道女の食事をまかない、すべての病人の世話をすることは不可能と考えられていたので、多くの修道女が自分の両親や親戚や恩人の家でかなり長い期間過ごしていました。

（続く）

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

＜＜ Communications (時事通信) ＞＞

2018年12月

フェデリコ・ルイス神父帰天

インターネットを通してすでにご存じのことと思いますが、跣足カルメル会士フェデリコ・ルイス神父が11月16日の朝、亡くなりました。この数年の間、アルツハイマー病を患っていました。神父は、1933年12月24日、スペインのパレンシア県のコスエロス・デ・オヘダという町に生まれました。1950年7月31日に誓願を立て、1957年10月27日に司祭に叙階されました。

フェデリコ神父が本修道会やテレジアン・ファミリーや教会に対してなされた貢献は、皆がよく知るところです。特に霊性神学の研究、とりわけ十字架の聖ヨハネの教説やメッセージに関して、比類のない専門家として働かれました。

彼の葬儀は、11月17日、マドリッドで行われました。跣足カルメル会のイベリア管区管区長、ミゲル・マルケス神父の説教の中から、次の言葉を選びたいと思います。「こうして私たちは、フェデリコを、牧童（訳注：キリストのこと）の胸にゆだねるのだと考えることによって慰められます。牧童の傷ついた心は愛によって開かれたままであり、フェデリコは、今や永遠に生き、支配しておられる彼と共にいるのです。そこから、牧童との出会いから、また今や成就された祝福に満ちた安らぎの中から、フェデリコは、私たちを覚醒し、何が重要であるか私たちを諭し、牧童との一致へと、また私たちの間の交わりへと導いてくれることでしょう」。

（訳者注：このニュースは、少し前になりますが、十字架の聖ヨハネの専門家として世界的に著名であったフェデリコ・ルイス神父の逝去を、お伝えしたく、掲載いたしました。）



カルメル誌 新刊案内



2018年 冬号 No.371

《霊的生活への招き》

秘跡に養われるキリスト教生活(2)―洗礼の秘跡

今泉 健

信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(4)

―小鳥の祈り(2)信仰のまなざし 片山はるひ

カルメル会の会則に見る

アシェンシスと修道生活(4) 九里 彰

現代に響くルルドの霊性(Ⅲ)

―マッサビエルの洞窟での観想と聖母出現

須沢かおり

祈りを育てるために

森 一弘

風に吹かれて(18) カラスの贈り物―与え与えられる

原 造

キリストに伴われて季節を巡る(4) 伊従信子

祈りを教えてください(4) ヨハネ福音書

―栄光と愛に包まれた祈り 田畑邦治

ともに暮らす家への気配り ポーリン・フェルナンデス

霊性研究会議義録(3)―クリスマスに際して

奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

―『ラウダート・シ』を生きる―

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」

吉川まみ

長く見落とされてきた

「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト

大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で

―『ラウダート・シ』の霊性

中川博道

諸宗教対話の立場からひと言

フランコ・ソットコロノ

自然とカルメルの霊性

―十字架の聖ヨハネを中心にして

九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他ににてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記
へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬
+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

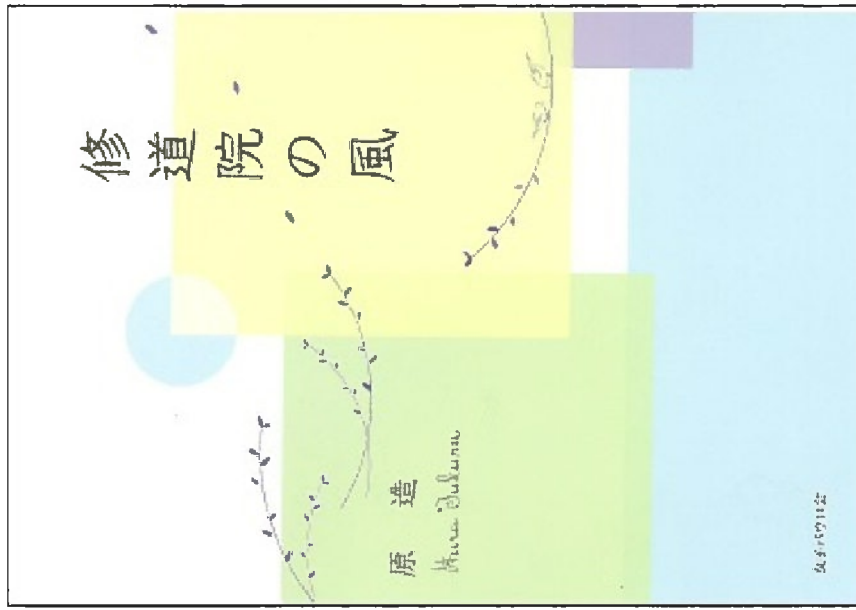
1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

女子パウロ会
新刊案内

5月10日発行



B6判・128頁・定価 本体1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

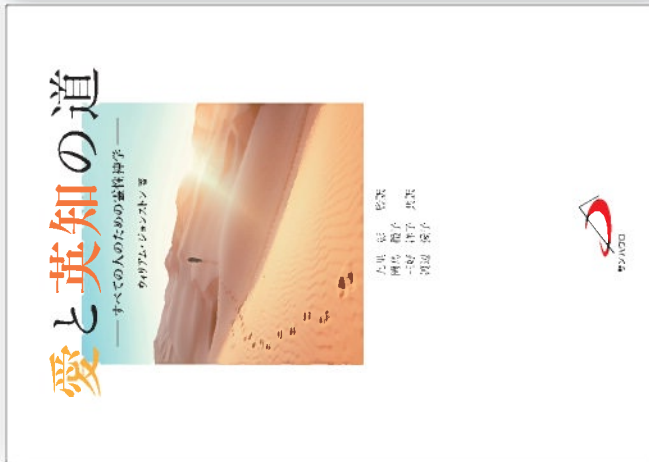
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





2019年のご案内

年間テーマ **かかわりを広げる**

特別企画

リレー対談 私と、家族と、社会とのかかわり
 晴佐久昌英（東京教区司祭）× 香山リカ（精神科医）
 関根英雄（東京教区司祭）× 宮台真司（社会学者）

以降継続

神から受けて、自分、隣人、家族へ、そして教会だけでなく、社会へと広がっていくべき「かかわり」。その愛のかかわりをそれぞれの場で今一度見つめ直し、深めるために数組の識者が対談します。

新連載

●カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

海軍軍人、また昭和天皇の側近として活躍し、日本とパチカンの外交関係樹立に貢献した山本信次郎の足跡を史料を基にたどります。



大瀬高司 師

- 詩編の中の「わたしと神」／青木孝子（聖書学者）
- 典礼と信仰教育——オリエンズ典礼セミナーⅢ（4月より）
- 「先生、あの偉そうな赤ちゃん誰？」——神様をめぐる対話
 小林由加（カトリック学校教員）
- 典礼暦とともに、季節の味わい／柳谷晃子（台所料理人）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp>

使徒言行録を読む

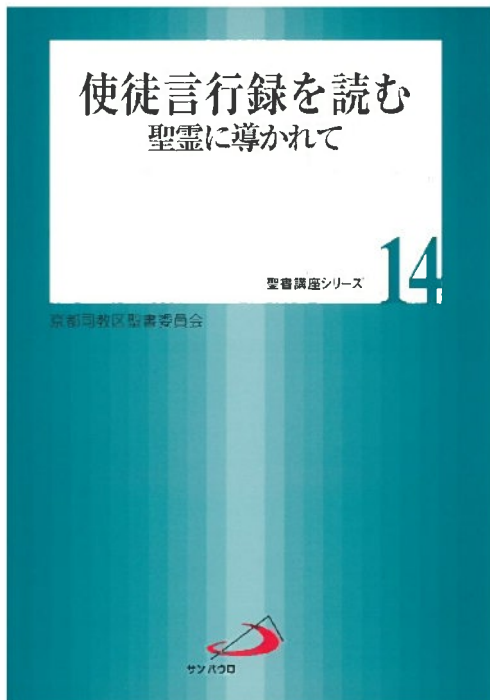
聖霊に導かれて



14

企画・編集 京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税
B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2
お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

京都司教区聖書委員会
〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階
TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910
E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】287

第2版
好評発売中!



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】246

定価540円(税込) 209頁



わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



上野毛 霊性センター(東京) (2019年～2020年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】 4月18日(木)夕食～21日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

5月11日(土)～12日(日)

7月20日(土)～21日(日)

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

5月25日～26日 2020年

7月6日～7日 1月18日～19日

11月9日～10日 3月14日～15日

日帰り黙想会 (13時30分～16時) 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように……。

2月 7日(木) 2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金) 4月11日(木)

4月26日(金) 5月 9日(木) 5月31日(金) 6月13日(木) 6月28日(金)

7月11日(木) 7月26日(金) 9月12日(金)

10月31日(木) 11月14日(木) 11月29日(金) 12月13日(金)

2020年

1月 9日(木) 1月31日(金) 2月27日(木) 3月12日(木) 3月27日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) 福田正範 神父

8月1日(木)～10日(土)

10月10日(木)～19日(土)

8月16日(金)～25日(日)

12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
2月16日(土)～17日(日)
4月27日(土)～29日(月)

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士
11月22日(金)～11月24日(日)

特別黙想会(初日20時～翌日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月15日(金)～11月17日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 2月2日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : 主の奉獻

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

3月2日(土)、4月6日(土)、5月4日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)、<8月はお休み>、
9月7日(土)、10月5日(土)、11月2日(土)、12月7日(土)。

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイラー神父・古川神父)



宇治カルメル会 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

- 6月1日(土)～2日(日) イエスと出会い直す 中川博道神父
7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

- 3月9日(土) 九里彰神父
4月20日(土) 中川博道神父
6月8日(土) 中川博道神父
9月7日(土) 九里彰神父
11月16日(土) 九里彰神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

- 2月13日(水) 「キリストの平和」 九里彰神父
3月20日(水) イエスとともに過越しを祝う Sr.ロサ
4月17日(水) 復活のイエスをさがして 中川博道神父
5月15日(水) 「だれが一番偉いか？」 九里彰神父
10月30日(水) かそけきもの Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）

- 5月18日(土) ”我”に立ち返る時 中川博道神父
6月29日(土) ゴールは近い Br.原造
7月27日(土) 「私は復活であり、命である」 九里彰神父
9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ
10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】（金曜午後8時<夕食なし>～土曜午後4時）

- 3月15日(金)～16日(土) 九里彰神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

- 9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父
10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

【青年の集い（ネットで配信）】（午前10時～午後4時）

- 2月23日(土) 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 (午後5時～午前9時)

4月28日(日)～5月5日(日) **イエスとともに生きる基盤を探す** 中川博道神父

【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月9日(土)～10日(日) **新しい創造の時** 中川博道神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月7日(土)～8日(日) **「メシアのしるし」** 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

5月23日(木)～6月1日(土) 九里彰神父

8月5日(月)～14日(水) 中川博道神父

8月19日(月)～28日(水) 九里彰神父

11月6日(水)～15日(金) 中川博道神父

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30 {講話なし 各食事つき}

【聖週間を祈る】

4月18日(木)～21日(日)

聖木曜日から復活祭まで またどの曜日からでも参加可能です

【クリスマス】

12月24日(火)～12月25日(水)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願ひ

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに57年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願ひいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-671-1558 Fax：052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会
レデンプトリスチン鎌倉修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2019年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

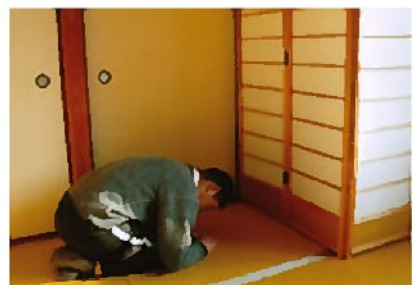
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）
8月 休み
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

祈りのつどい

【2019年2月16日（土）】

「わたしに従いなさい」とイエスは言われます。

でも、いったいどのように？

一人ひとりに与えられためぐみを分かち合うなかから、

イエスに従う道が見えてきますように。



講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里
伊従信子(3月以降はしばらくお休みとなります)

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/> ★申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ 新 I	1/20(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
サダナ I	2/8(金)17:30- 11(月)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上
フォローア ップ	3/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	3/20(水)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	同上
入門 A	4/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
リピータ ーの会 @那須	4/27(土)17:30- 4/30(火)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門 C・・・入門 A または入門 B を終えた方。

◆サダナ新 I

入門 A.B.C (サダナ I) に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年12月27日(木)～2019年1月4日(金)
- ② 2019年5月5日(日)～5月13日(月)
- ③ 8月14日(水)～8月22日(木)
- ④ 10月6日(日)～10月14日(月)
- ⑤ 12月27日(金)～2020年1月4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月1日(金)～2月3日(日)
- ② 2月22日(金)～2月24日(日)
- ③ 3月15日(金)～3月17日(日)
- ④ 6月21日(金)～6月23日(日)
- ⑤ 7月12日(金)～7月14日(日)
- ⑥ 9月20日(金)～9月22日(日)
- ⑦ 11月15日(金)～11月17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年5月30日(木) 夕食～6月7日(金) 昼食 小暮 康久 師 (SJ)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

2018年・2019度 女子青年黙

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 2/1 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 2/8 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 2/15 神の言葉
—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/22 信徒・司祭・修道者
—誰もが召されている
- 3/1 仕事という人間の課題
—社会に寄与して働く
- 3/8 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/15 死—その受け入れと克服
- 3/22 人生の完成—神の内に生きる
- 3/29 聖母マリア—信じる者の原型

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

【教会】

- 2/5 信仰者の共同体—教会の本質
- 2/19 救いのしるしと実現—秘跡の意味
- 3/5 憐れみと愛の祝い—罪のゆるしとミサ
- 3/19 「聖徒の交わり」—世界の只中のキリスト

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト
教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
近代と現代におけるキリスト教と理性

- 2/2 ヤスパーズ:実存と限界状況(20世紀)
- 2/16 ハイデガー:意識の構造と死への先駆性
(20世紀)
- 2/23 ガダマー:真理と方法(20世紀)
- 3/2 ラーナー:現代におけるキリスト者(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

2/9、3/16

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトウルハイム1階右
テレジア小聖堂

2/25、3/25

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

3/9(土)10時～3/10(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

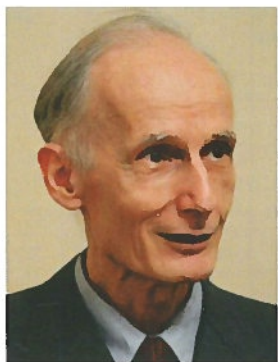
Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—





クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓いて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
14：00～16：00



くのり
指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

1月24日—まことの家族とは— 終了

「わたしの母、わたしの兄弟とは…」—（ルカ8・21）—

3月21日 祈りと祈りの場

「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）

5月16日 人間の傲慢

「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）

7月25日 神の愛と隣人愛

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）


12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）

「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



午後の静修<講話・念祷・ミサ>へのおさそい

《あなたを探しつづける神》

— 心奥深くに隠れ住むお方 —

日 時：2019年2月2日(土)
12時～16時(受付11時)

指 導：中川博道神父 (カルメル修道会)

対 象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会

をご記入の上、

FAX 又はメールにて (返信します)

定員になり次第×切

FAX:045-402-5131

e-mail: shihennokai@gmail.com

場 所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車

サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折

→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m直進

四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com



召命黙想会

日 時：2019年4月27日（土）9:30～16:00

開催地：レデンプトリスチン鎌倉修道院

（観想修道院）

指導司祭：ジャン・レイモンド・ジラルド 神父

（レデンプトール修道会）

対 象：カトリック女性信徒で奉献生活を望んでいる
25歳以上（年齢相談）の独身の方

参加費：1,000円（昼食代）

申込み：住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を
記入の上、往復葉書でお申込みください。



〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町3-10-6

レデンプトリスチン鎌倉修道院

Tel. 0467-22-3020

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

年末年始、北海道の伊達女子カルメル会に滞在した。宇治では雪のゆの宇もなかったが、伊達は年末寒波で真っ白であった。大晦日に近づいた頃、町の温泉に行こうと思いつき、その話をすると、修道院で奉仕されている二人の女性から、「北海道は雪ではなく、氷になります」、「特に朝晩は凍り、ブラックアイスバーンとなって、スリップするので、慣れていないと、あぶないですよ」と、脅かされる。宇治では毎日のように車を運転しているのだが、そう言われると、さすがに不安になってくる。

しかし、言い出した以上、後に引けば、男がすたる。夕食時に受付の姉妹に話すと、午後より午前の方がすいていて良いとのこと。翌日午前十時決行と腹をくくる。翌日は朝食の時にもまだ雪が降っており、姉妹は「タクシーを呼びましょうか」と言う。こうなると、温泉に行くのも、ほとんど決死の覚悟である。十時少し前まで部屋で待機。吉良邸に討ち入りする前の赤穂浪士のような心境となる。いよいよ十時。外は零下4度。シャッターを開け、座席の位置を直し、バックミラーを調節し、鉢巻をし—これはさすがにない—、おそろおそろの出発。何のことはない。何も問題はなかった。

帰りも慎重に運転し、11時半頃、無事生還。神に感謝！

(P. 九里)



男子跣足カルメル修道会のホームページ

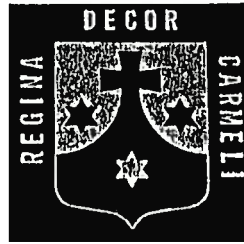
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google : 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **2月22日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456